



GAより簡単にまとめた要点であるから、中心図の枠組みにほぼ対応する。しかし技術者が身に着けるべき専門的能力はより実践的で具体的だから、IEA-PCはもっと項目が多く豊かである。

JABEE認定基準をはじめIEAが示すGAは、図1の中心図中に項目を示す程度には具体的になっているものの、現役の技術士が身に着けるべきPCよりは基礎的なものである。それを筆者は“技術者の素養”と呼んでいる。

GAは“技術者の素養”を網羅するから、図1中心図の全ての枠内に対応する内容がある。“素養”とは、身に着けた者が自ら、それを基礎にPCに高める（developする）ことができる基礎的な知識や能力のことである。技術者教育は、素人の学生にGAを身に着けさせるのが目的であり、主語は教師である。それに対し、PCを身に着けていくIPD、CPDの主語は、素養を身に着けているべき技術者その人である。

## 5 GA/PC：“倫理実践力”を見直す

今、IEAのGA/PC第4版の発行を受け、日本でも翻訳活動が始まった。しかし、翻訳は“倫理実践力”を高める上で不可欠ではあるが、決して唯一の道でも本道でもない。

図2に倫理の3つの面から表現した“倫理実践力”と、それを見直す3つの契機を示した。

“倫理実践力”の目的は、社会や顧客や公衆が望むことを実現し、して欲しくないことを行わない能力、である。その内容には、動機等の無意識的な面（美德・悪徳）、価値判断の面（善悪）、認識や行いの正しさの面（真偽）が関係し、全体の能力は図1の中心構図を網羅する。

“倫理実践力”に100%は無いから、PDCAが回っていかなければならない。これがGA/PCを見直す第1の契機である。また、技術の行為は物質的な影響としても将来に残るから、時代を感じ先読みする倫理的想像力が要る。これが第2の契機である。そして、IEAなどの他国他所の知見からも学ぶべきである。これが第3の契機である。

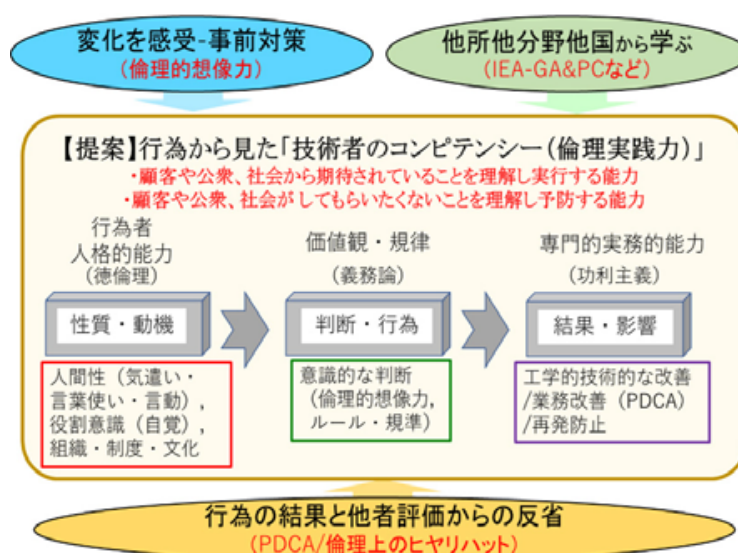


図2 GA/PC（倫理実践力）と見直しの3つの契機

IEAから学ぶ第3の契機は必須であるが、国内で3つの契機からGA/PCを継続的に見直す仕組みを作り出すことの方が本質的である。

## 6 技術士が“倫理実践力”を見直す意義

当日、PCは技術士2次試験で問われる内容であるとの議論があった。3つの契機を持つ技術士がPCを見直し、そこからGAを“素養”として抽出して技術者教育に求める。これが見直しの筋である。IEAが求めるのは「自立した技術者」である。国内でGA/PCを見直す仕組みを作ったこそ、日本の技術者が真に自立した技術者へと、次の一步を踏み出すことができる。

### <引用・参考文献>

- 1) 大中逸雄：「JABEEにおけるエンジニアリング・デザイン教育への対応 基本方針」, 2009 (JABEEホームページ [https://jabee.org/doc/engineering\\_design\\_100430a.pdf](https://jabee.org/doc/engineering_design_100430a.pdf))
- 2) Schön A. Donald：The Reflective Practitioner, Basic Books, 1983；柳沢昌一・三輪建二訳『省察的実践とは何か；プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房, 2007.

比屋根 均 (ひやこん ひとし)  
技術士（衛生工学／総合技術監理部門）

博士（情報科学）  
日本技術士会 中部本部 倫理委員長  
一般財団法人 岐阜県公衆衛生検査センター 環境部  
e-mail：hiyagonkin@yahoo.co.jp

